

Narashino International Association



NIA SQUARE ナショナルスクエア

Quarterly News

第69号

2005年3月1日
習志野市国際交流協会

Special ブラジル－熱帯の楽園－
Report ドバイ“ただ今変身中”
Report APEC青少年科学フェスティバルの参加して
上 総掘りについて

Information N.I.A.事業報告
N.I.A. Youth 青少年部会のメンバーになりませんか
Who's who こんにちわ・コンニチワ
Challenge ザ・英文クロスワード・桜まつり



ブラジル

ねったい 热帯の楽園

ヤスマル マルシア (N.I.A.会員)

今号の特集記事は、熱帯の楽園、ブラジルの紹介です。NIA会員のヤスマル・マルシアさんが書いてくださったポルトガル語の原文を日本語要約とともににお届けします。

Que país é o Brasil? Onde se localiza? Como é viver neste país tão longíquo?

O Brasil é o quinto maior em superfície do mundo, possui uma extensão territorial de 8,511,996? (23 vezes maior que o Japão). Ocupa 47.3% da América do Sul e faz fronteiras com os países latinos exceto o Chile e o Equador. Possui 7367 km de orla marítima e é banhado pelo Oceano Atlântico.

O seu descobrimento deu-se no ano de 1500 e foi colonizado por portugueses e tornou-se independente no dia 7 de setembro de 1822, pelo imperador D. Pedro I.

Hoje é República Federativa do Brasil e tem como idioma oficial o Português, possui uma população de 182,560,164 de habitantes e o atual presidente eleito pelo povo é o Senhor

habitantes e o atual presidente eleito pelo povo é o Senhor Luís Inácio Lula da Silva que governa segundo as normas de uma República Democrática Pluripartidária.

É um país que possui uma extensa área verde(Amazonas) com uma hidrografia composta por vários rios e seus afluentes, como por exemplo, o rio Amazonas, Tocantins, São Francisco, o rio Paraná, etc ... A sua paisagem é muito colorida e varia de região, devido as condições climáticas. Lá se encontra serras e montanhas (Pico da Neblina-3014 metros), na região do Mato Grosso temos o Pantanal, na região Norte-Nordeste-Sudeste-Sul, verifica-se uma extensa orla marítima com lindas praias. O Rio de Janeiro tem como cartão postal o Cristo Redentor e o morro do Pão de Açúcar. Em alguns estados se encontra prédios que são considerados patrimônio nacional e se mantêm na sua forma original, dando-nos a chance de conhecer um pouco da história do Brasil.

O fluxo de imigrantes é grande e variado. Os primeiros foram



Hoje é República Federativa do Brasil e tem como idioma oficial o Português, possui uma população de 182,560,164 de

os portugueses, depois africanos, italianos, japoneses, alemães, poloneses, espanhóis, chineses, etc ... Graças a essa mistura de raça que não existe a discriminacão racial, que causa tantas guerras. Hoje, você pode encontrar comida típica de varios países, assim como também seus condimentos. Mas para o barasileiro o básico é o arroz, feijão, bife e salada. Gostam também de saborear um churrasco, uma caipirinha, uma feijoada etc ...



リオのコンコバード丘とキリスト像

O paés é um grande produtor de laranja e possui outras frutas como coco, abacate, manga, abacaxi, açaí, cupuaçú, mamão papaia, uva, banana, castanha, etc ... Através de pesquisas, descobriu-se que muitas destas frutas tem propriedades curativas no tratamento de certas doenças, seja através da polpa da fruta, de chá ou de sucos e que são até exportados.

Possui um povo trabalhador, alegre, carismático que tem muita fé e amor, onde 86% são católicos. O Brasil tem como Santa padroeira a Nossa Senhora de Aparecida, cuja catedral se localiza em Aparecida do Norte. Todo ano no dia 12 de outubro os devotos de todo o país se deslocam para participar da Santa missa em homenagem a padroeira e fazerem seus pedidos. É um povo que desde criança aprende a importância da família, amor, fé, dos seus direitos e deveres. Todas têm direito a frequentar uma escola seja pública ou particular. Quando atinge a maioridade (18 anos) todos os cidadãos (homens e mulheres) devem se apresentar a justiça eleitoral e efetuar a sua inscrição, fazendo então parte do colégio eleitoral (votar) e aos homens ainda deverão alistar-se ao servieo militar onde receberá os princípios do servir à patria (patriotismo) em período integral ou parcial durante 1 ano, ficando dispensado de outros afazeres (trabalho, escola, etc ...)

No agricultura o Brasil se destaca pelo cultivo da soja, laranja, café, milho, cana-de acúcar, todos produtos de exportação. Se destaca também pela pecuária de corte de onde se obtém subprodutos como a carne, o couro (bolsas, cintos, sapatos, roupas, etc ...) também para exportação. A avicultura

se faz através da producão orgânica, motivo pelo qual, hoje é produto de exportacão. A fitoterapia também tem se destacado já que o país possui uma vasta e enorme variedade de plantas.

Sabem quem È Edson Arantes do Nascimento: È o Rei do futebol, é o famoso Pelé o melhor jogador do mundo. E o Airton Senna? È o nosso grande compeão de Fórmula 1 São através destes exempls e outros mais como profissionais e medalhistas, que os brasileiros se vém estimulados à prática de esportes seja, profissional ou amador.

No campo das letras existem grandes escritores como Jorge Amado, Paulo Coelho, etc ... , que estimulam a adquirir o hábito da leitura ampliando assim o seu conhecimento.

O som inconfundível do pandeiro, da cuíca, do cavaquinho, do surdo, que juntos resultam no famoso samba. Um ritmo que é um verdadeiro convite para se dançar só ou acompanhado. Ao som do violão ou de um baixo, ouviremos a famosa bossa nova. É alegria, tristeza, felicidade, amor, saudade, cantada pelos brasileiros através da música (Tom Jobim, Caetano Veloso, Milton Nascimento, Elis Regina, Jorge Aragão, Gal Costa, Maria Bethânia, etc ...)

Enfim, o Brasil é um país abençoado por Deus, pela sua grandeza física, pela sua beleza e pelo povo que enfrenta a rotina com esperança e fé. Além de possuir samba, carnaval, futebol e o belo estado do Rio de Janeiro

（以下は日本語要約です）

ブラジルとはどんな国でしょうか。どこにありますか。人々はどんな生活をしているのでしょうか。ブラジルは、世界で5番目に大きい国で、8,511,996平方キロメートル（日本の約23倍）あります。南アメリカの47.3%の広さを占めていて、周りをラテン国家に囲まれています。チリやエクアドルとは国境を接していません。大西洋に面した海岸線は、7,367キロメートルあります。ブラジルは1500年に発見され、ポルトガルの植民地になり、1822年9月7日に独立し、ドン・ペドロ一世が皇帝になりました。今ブラジルは、ブラジル連邦共和国となっています。公用語はポルトガル語で、人口は約182,600,000人です。大統領は直接選挙によって選ばれ、今の大統領はルイス・イナシオ・ルラ・ダ・シルバーで、民主主義により政治が行われています。

国土の広い面積が緑で覆われていて、多数の大きい川や小さい川が流れています。アマゾン川や、トカンティンス川、サン・フランシスコ川、パラナ川などがあります。地域によって気候が違うので、異なった色んな景色が見られます。ブラジルは山や山脈が多く、ピコ・ダ・ネブリナ山は3,014メートルで一番高い山です。マッ

ト・グロッソ州にあるパンタナールは湿地帯のサバンナです。北部のノルテからノルデステを通り南部地方にかけて、きれいな海岸を見ることができます。

リオ・デ・ジャネイロの「キリスト像」と「ポン・デ・アスカル」の写真は、ポストカードに使われていて有名です。ブラジルには色んな所に、古い建物の遺跡がたくさん残っています。それを見ることにより私達は、ブラジルの歴史をより一層知ることができます。ブラジルにはいろいろな国から、人々が移民として来ています。最初に来たのはポルトガル人で、その後、アフリカ人、イタリア人、日本人、ドイツ人、ポーランド人、スペイン人、中国人などが移って来ています。いろいろな国の人々が暮らしていますが、人種差別はありません。色々な国の料理があり、調味料もいろいろあります。ブラジル人の日常の食事は主に、ごはん・フェイジョン(豆とにんにくの料理)・ステーキ・サラダなどです。家族や友達が集まつた時には、シユハースク(牛肉を焼いたもの)やフェイジョアーダ(黒豆・にんにく・豚の耳や足・ソーセージの入った料理)を食べ、カイピリキンヤ(ラム酒に砂糖とレモンを加えて氷を浮かべた飲み物)を飲みます。



ブラジル名物 シュラスコ料理

ブラジルではオレンジが多く栽培されています。他に、ココナツ・アボガド・マンゴー・パイナップル・ぶどう・バナナ・栗なども作られています。果物のジュースは健康に良いので、たくさん外国に輸出されています。

ブラジル人は大きく分けて、白人・黒人・インディオの三つの人種から成り立っています。人々はよく働き、陽気で、とても慈悲深いです。また、信仰心が篤く、責任感が強いです。人口の約86%の人がカトリック信者です。色々な国から人々が移って来ているので、色々な宗教があります。カトリックに基づく公式守護神は「聖ノッサ・セニョーラ・アパレシーダ」です。アパレシーダ・ド・ノルテという町の大きな教会に守護神は祭られています。毎年10月12日に、信心深い人々が神の前に集まり、希望をかなえてもらえるようにお祈りし、また感謝します。

ブラジルの家庭では、子どもが小さい時から、家族を愛すること・宗教を信じることを話し、また、権利や義務について教えます。義務教育は公立や私立の学校で受けられます。18才で成人とみなされ、選挙権を持つことになります。男性は18才から1年間兵役につき、愛国心が養われます。

ブラジルは、長い間コーヒーの生産国として有名でした。今では、オレンジ・大豆・とうもろこしの生産が重要になっています。牛の飼育頭数でも、世界のトップグループの中に入っています。さとうきびは砂糖生産のほか、石油に代わる自動車燃料の原料になっています。養鶏業が盛んで、鶏をオーガニックな方法で育て、おいしい鶏肉をたくさんの国へ輸出しています。また、色々な種類の葉草を栽培し、輸出しています。



満開のコーヒーの花

エジソン・アランテス・ド・ナシメントを知っていますか。サッカープレイヤーとして最初に有名になったペレのことです。アイルトン・セナのことを知っていますか。F1ドライバーとして有名でした。ブラジルでは、プロサッカーやオリンピックのメダリストの試合を見て影響を受け、スポーツをする人が増えました。

ブラジルの有名な作家には、ジョルジ・アマドやポウロ・コエリョなどがいます。本を毎日読むことにより、刺激を受け、知識が増えるように思います。

サンバはブラジルの有名な音楽です。パンディエロ、クワイカ、カバキニョ、スルドなどの楽器でサンバを演奏します。人々は、リズムが聞こえてくるとその場所に集まり、ダンスを始めます。ボサノバはギター、ピアノ、バテリーヤなどで演奏します。ブラジル人は音楽で、うれしいこと、さびしいこと、幸せ、愛、なつかしいことなどを表現します。トム・ジョビン、カエタノ・ベロゾ、ニュートン・ナシメント、エリス・レジナ、ジョルジュ・アラゴン、ガオ・コスタ、マリヤ・ベトニヤやホベルト・カルロスなどが歌手として有名です。

最後に、ブラジルは神に守られた広くて、本当に素晴らしい国です。人々は未来が更に良くなるように、毎日良く働きます。サッカー・サンバやリオ・デ・ジャネイロの美しい景色などだけではありません。

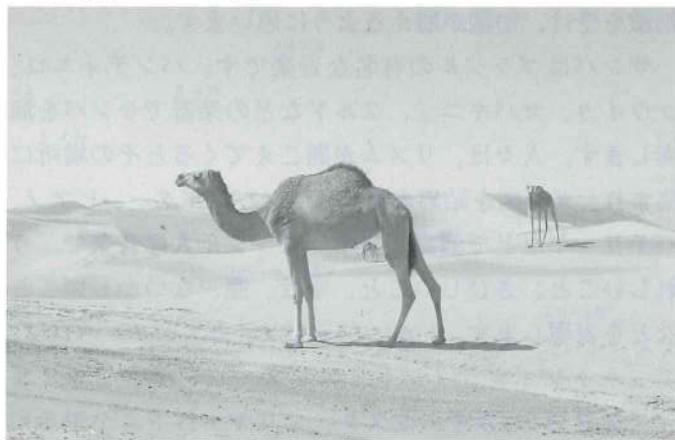
※写真は、シグナス出版のご協力で「大自然の楽園ブラジルへようこそ」から使用させていただきました。

早朝、礼拝の時間を知らせる「アザーン」で目が覚めているのは、10ヶ月前。今では、「アザーン」が響き渡っていても気にならなくなりました。アラジンと魔法のランプの挿絵のようなモスクも目に留まらなくなりました。

U A Eと聞いて、この国のがわかる人は、多分サッカーファン？2年前、サッカーワールドカップ・アジア予選で日本と戦ったあの国です。正式には、アラブ首長国連邦(United Arab Emirates)と言い、アラビア半島の7つの首長国が一緒に1971年に独立しました。

「中東のアラブ」で暮らすことが決まり、親戚縁者は口をそろえて「大丈夫？」と心配してくれました。私たちが、ドバイに入国したちょうどその日、イラクで3人の日本人が初めて拉致されました。その影響で、日本人学校のスクールバスの「日本人学校(英語とアラビック)」と書かれた文字が日本人の安全確保のために消され、走行中はカーテンを閉めるよう指示がありました。やっぱり「アラブ」なんだ…と思い、ここでの生活が始まりました。

「中東・アラブ」と聞き、想像するのは、石油・砂漠・イスラム・ラクダ・戦争…でしょうか。でも、ドバイは、いわゆる「中東・アラブ」のイメージとは異なりとても近代的で安全で清潔な街です。時々、「海外」にいることを忘れてしまうほど不自由なく過ごしています。その中で、時折「生活習慣の違い」を痛切に感じながら生活しています。



美しいリワ砂漠

射すような日差し、なんと50℃！

ドバイを含めたアラビア湾(ペルシャ湾)沿岸の気候は、亜熱帯性乾燥気候に分類されます。雨は冬場の極少量降る程度（と言われていますが今年は、例年になく雨が多いそうで、雨の準備のないここでは、方々で人や街や交通面で混乱が起きています）で、気温は、1年を通

して高く、夏場は最高気温が50℃以上に達することもありました。

外の暑さをよそに、建物の中は冷蔵庫のように冷やされ、上着がないと風邪をひいてしまいそうなくらいで、ショッピングセンターで歩き回っていても体は冷え切り、外に出ると外気温が40℃以上あるにもかかわらず、暖かくさえ感じられます。それほどまでに体が冷え切れてしまします。でも、数分で今度は、暑さで気が朦朧とする…まるで北風と太陽の旅人のようです。いくら、石油が売るほどあるとはいえ、冷やしすぎは体によくないです！

4月からドバイの生活が始まり、毎日、窓から外を眺めていますが、雲を見たのは10月に入つてからです。日差しは、日一日と強くなり、7月は、日陰にいるだけでも息苦しくなるほどで、外に出るときは長袖、帽子、サングラス、水は必需品です。射すような日差しとはこのようなことだと痛感しました。アラブ人が着ているディッシュダーシャ（男性が着用する白い服）やアバヤ（女性が着用する黒い服）は、一見、暑そうに見えますが、実は、暑さから身を守ると言う意味もあると言うことがわかり、私も着てみたくなりました（残念ながらまだ、体験していません）。

アバヤの話になりますが、アラブ諸国では、モスリム（イスラム教徒）ではない女性もアバヤを身に着けなければならない国もありますがドバイは、そのようなことはありません。女性が肌を露出することをできるだけさけるよう言われていますが、ヨーロッパ系の人たちはとても自由な服装で街を歩き、ここがアラブであることを忘れてしまうこともあります。

ないものは、作つてしまおう！

U A Eは、石油産業で栄えた国ですが、ドバイは、昔から貿易も盛んで、クリーク（入り江）沿いの港には水色や白などでペイントされた小さなかわいらしい木造船が今も品物を山積みにし、目的地まで運んでいます。停泊しているときは、アラビアンナイトに出てくるようなモスクと真っ青な空と海によくマッチして、その風景は、ディズニーランドのアラビアンコーストを思われます。しかし、その行き先の一つはイラクで日用品など（日本の中古車もよく目にします）が運ばれていると聞いていますが、いろいろな意味でこの船は中東の大事な鍵を握っているよう私には思えます。

今、ドバイはひとつの日本のバブル経済のようです。不動産は、売り出すとすぐに売れ、マンションは、建築

計画の段階で完売。日ごとに車の量も増え、交通渋滞は日常茶飯事です。どんどん人が増えているのを感じます。そのため、物価も上昇し、私たち（外国人）が住んでいるアパートの家賃も今年4%値上げされ、しかも、満室で空室待ちの状態です。新しいショップ、オフィス、ホテル、アパートメントなど次々に建てられています。

このように、湾岸地域をビジネスチャンスの場と考える多くの外国企業が集まり、さらに、観光にも力を入れています。



新しいビル群

砂漠の街に緑はない。では、緑をいっぱいにしようと広範囲にわたる「緑化プログラム」が実施され、道沿いや公園には手入れの行き届いた草木や花が絶えず見られます。私の子供達は「日本より緑が多い！」と驚いていました。草木や花の下にはホースが埋め込まれ、乾燥する真夏も緑が絶えません。

ドバイに美しい海はない。なければ、作ってしまおう。ということで、椰子の形を模した人工島（パームアイランド）を作り、超高級ホテルや別荘を建築中で、このような計画は3つあるそうです。あのベッカムさまもご購入されたことは有名です。

ドバイでは、スキーができない。なければ、スキー場を作ってしまおうと、屋内スキー場も建築中で、来年中には完成する予定だそうです。実は、ザウスの材料を使って建築しようという計画が当初あったようですが、コスト面などからそうではなくなりました。ザウスに行きそびれた私は、ぜひ、ここで屋内スキーを楽しみたいと思っています。

ないものは、何でも作ってしまうドバイは「世界一」も大好きで、世界一大きな国旗を掲げています。世界で唯一の7つ星ホテルもあります。そして、完成すれば世界一高くなるであろう「貿易センタービル」を今、建築中です。

移民と外国人労働者の力

2004年の発表では人口は、約460万人（1995年の国勢

調査では240万人）。そのうち、U A Eの国籍を持つナショナル（ローカルとも言っています）は、約20%。インド、パキスタン、バングラデシュ、イランなどからの移民が非常に多く、その他に、大量の外国人（インド、パキスタンなど）労働者がいます。彼らは、故郷に家族を残し、働きに来ています。そのため、男性の数が極端に多く、通りを歩くとすぐ違う人のほとんどが男性で遠慮なくジロジロと見られます。その理由は、私が女性だからなのか、あるいは、アジア人だからなのか、モスリムではないので見てもかまわないと思っているのか…その視線も気にならなくなりました…ナショナルの女性は高級車でお出かけなので街の中を歩いてウロウロはしません。

ここで、外国人労働者が働くためには、必ず、あらかじめ雇用主が必要です。そして、もし、雇用主の意そぐわないことがあると簡単に解雇され、職を失い、すなわち即帰国ということになります。雇用主が「解雇」を言い渡すとそれがたとえ不当な理由であっても解雇されてしまうそうです。

私が住んでいるアパート（私はホテル系のアパートメントに住んでいます）のスタッフがある日突然、解雇されました。彼がいなくなると言うことは、私たちにとって大きな損失でした。彼の上司にあたる他のスタッフに解雇の理由を尋ねても「I don't know!」の繰り返しで、結局彼は、国（アルジェリア）へ帰っていました（多分、帰ったのだと思います）。何があったのかは未だにわかりませんが、納得のいかない一件でした。

もうひとつ外国人労働者が働くための大変な条件があります。それは、英語が話せること。公用語はアラビア語ですが、物事のほとんどが英語でなされます。インドなど、中国語訛、アメリカ訛…いろいろな特徴を持った英語が飛交っています。

英語は世界への扉の第1歩だと改めて思いました。ここは、英語を母国語として持たない人の集まりですので、発音や文法が違っていてもわかってもらえることが多いです。それでも、英語が理解できず、頭の中が？マークでいっぱいになり、情けなく思うことがしょっちゅうあります。が、そこは、おばちゃんの私、人目もはばからず電子辞書を片手に単語を並べ、わからなくなったら日本語で話し、その場をしのいでいます。英語を話すとき、日本人がそばにいる方が外国人と話すより緊張して話せなくなるとよく言われますが、これもおばちゃんパワーで切り抜け、なんとかやっています。でも、世界中で日本語を話すことができる人はまだ少なく、これは、とても貴重なことであり、日本語の大切さもまた改めて気づかされました。

Report / APEC青少年科学フェスティバルに参加して

なかおか まいまい
中岡 舞 (東京工業大学工学部付属工業高校 2年)

私は8月3日～9日、APEC青少年科学フェスティバルに参加しました。これは、APEC加盟国^{かめいこく}の青少年が様々な科学教育プログラムや文化行事に参加するというものです。今回は第3回目の開催で、中国の北京で開催されました。参加国数約14カ国で、日本から全国のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校の生徒10名が参加しました。ここでは科学技術の様々なプログラムに参加しました。その一つに科学技術展示^{てんじ}がありました。私は、千葉県の伝統的井戸掘り技術である上総掘り（次頁に説明があります）について発表しました。



習志野市立第六中での井戸掘り仲間

海外で役立っているという素晴らしい技術である上総掘りを、世界の様々な人に知ってもらおうと考えたのです。IWPの大野篤志さんに協力していただいて、私の母校の第六中学校で同級生、そして、とても頼りになる卒業生の先輩方を中心に12日間で、延べ約200人の参加で30mの井戸を掘りました。この体験を基に、模型、ポスターなどを用い自分のブースで発表しました。発表では、英単語を並べて一生懸命説明しました。



参加した仲間たち（筆者右から2番目）

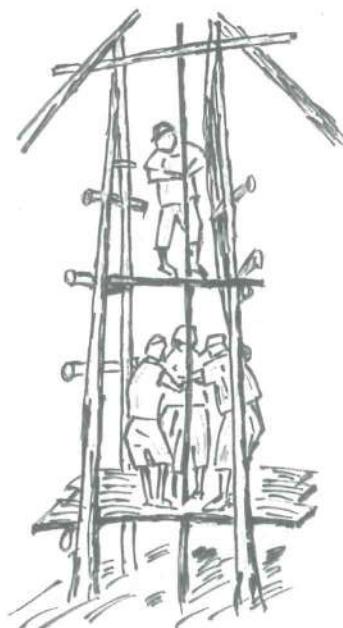


ペキンの街中で

そして北京の「技科日報」新聞にも取り上げられました。また、興味のある分野に分かれてディスカッション^{こうしうえいせい}を行なうプログラムもありました。私は「公衆衛生、保健、長寿」というテーマで話し合いをしたり、発表をしたりしました。その他にも、文化交流会もありました。日本代表団は合気道とソーラン節を発表しました。踊り終わったときには、やり遂げた思いが胸にこみ上げ涙が浮かびました。参加者が学生だけでも千人近く、とても多かったので触れ合うことが出来なかった人も多々いましたが、本当に一つ一瞬一瞬が私の胸に焼き付いています。部屋を共にした仲間、共に笑い合い、語り合い、協力した仲間。彼らと過ごした時間はまるで学校にいる時の様に自然で、あっという間に過ぎてしまいました。心配していた言語、過ごしているうちに言葉が通じなくても心が通じ合っていることに気付きました。また、万里の長城、故宮、天安門などを訪れたことも良き思い出です。

最後にこれほど素晴らしい体験は、決して一人では実現できなかったと思います。協力していただいたすべての方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ここでは簡単に「上総掘りテクノロジー」に触れておきます。



上総掘りについて（民俗文化財）

「上総掘り」は、我が千葉県から世界に発信出来るテクノロジーです。19世紀（江戸時代）後期に上総地方で考案され、その後、更なる工夫改善が成され、飲み水用や、実り豊かな農作物に不可欠な水を供給するのに簡便で、しかも経済的な「井戸掘り技術」です。

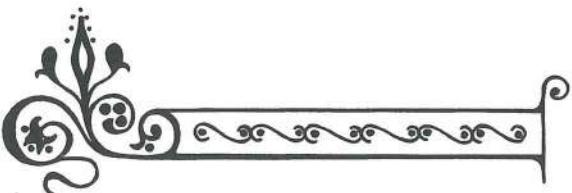
また、この技術の習得が比較的易しかったため、急速に日本全土に知れ渡り、油田、天然ガス（千葉県大多喜、新潟県新津田など）の掘削や、鉱物資源の探査などにも使われました。飲み水としては、久留里城の名水もこの技術のお陰です。

1902年にインドで「カズサ・システム」冊子が発行され、やがて、この優れた井戸掘りテクノロジーのことが世界に知れ渡りました。その後、1984年にアフリカ（ザンビア等）やアジア（フィリピン等）の国々で大活躍をすることになり今日に至っています。この上総掘りについて、もっと知りたい人は、是非「千葉県立上総博物館」（木更津市太田山公園内 ホームページのアドレス：<http://www.chiba-muse.or.jp/KAZUSA/>）でその素晴らしさを一度研究してみて下さい。模型やビデオも見られます。

上総掘りに必要な道具は、堀り鉄管と、竹ヒゴ・ヒゴグルマと、シュモクとハネギ（跳ね木）と、ネバミズ（粘土水）だけです。地層を掘り進むために、円筒型のノミを「堀り鉄管」の先端につけます。堀り進んでいくと碎かれた小石や泥屑などが邪魔になり、先に進めなくなります。そこで、粘土水、即ち「ネバミズ」を注ぎ込みます。その粘土水と一緒に邪魔物を地上に吸い上げます。また、この粘土水は掘った穴の内側の壁を補強します。次に、千葉県は竹の子の産地ですので、何処にでもあるこの竹で「竹ヒゴ」を作り、堀り鉄管に繋ぎます。竹ヒゴを巻き上げる「ヒゴグルマ」も作ります。

堀り鉄管の突き下ろしの時、鉄管を握る横木が必要です。これが「シュモク」です。そして最後の「ハネギ（跳ね木）」は、竹の跳ね返る力を使い、堀り鉄管を持ち上げたり、突き下ろしたりする装置、即ち「ハネギ」です。

掘る場所の地層によっても違いますが、表土層の下の帶水層や、更に掘り進んで粘土層から取水します。例えば作業員二～三人で一気に数百メートルの深さまで掘ったと記録されています。



スマトラ島沖地震・津波被災地の人々に募金活動

少しでもお役にたてれば！

皆さんもご存知のように昨年末（12月26日）インドネシアのスマトラ島沖で歴史に残る大きな大地震が発生しました。今回は、震源地が海だったため、大きな津波をも引き起こし、インドネシアはもとより、近隣のマレーシア、タイ、ミャンマー、インド、パングラディッシュ、スリランカ、モルジブ等の国々をはじめ、アフリカの東海岸の国々にまで大きな被害をもたらしました。

その被害状況は、いまだはっきりしたものがつかめない状況ですが、現段階ではっきりしているものだけでも死者と不明者合わせて、21万人以上、さらに家屋を失った方が100万人を超えたといわれています。

21万人以上の死者といわれてもなかなか実感出来る数字ではありません。例えはあまり良くありませんが、私たち習志野市民が、15万5千人あまりですから、それよりもさらに6万人近い数の方が亡くなつたと言うのですから、本当に恐ろしい数字です。しかもユニセフの発表によるとその被害者の半分以上が子どもだというですからやりきれません。

本協会の会員の方の中にも今回大きな被害を受けた国々の方々がおられます。今のところ、母国にいらっしゃる家族や親族の方々に被害があったという報告は受けていませんが、そのお気持ちたるや・・・・。

本協会では、被災された方々に少しでもお役にたてればと考え、日本語ボランティア協会と交流部会が発起人になり1月12日から1月31日まで募金活動をしました。



日常の活動中はもちろん、新年茶話会や、新年餅つき大会等の行事を通して皆さんに呼びかけさせていただきました。その結果、多くの方々から協力をいただきました。

日本円で69,051円、米ドルで10ドル

のご寄付をいただきました。

これらは、日本赤十字社を通して、現地の方々にお役に立てていただくよう手続きを取りさせていただきました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

Report/N.I.A.事業報告

会員の皆様の自主的な活動と多くの市民の方々の協力に支えられ、今年度もたくさんの事業を行うことが出来ました。この場をかりてみなさまに心から感謝申し上げます。

さて、今回は、昨年後半から新年にかけての活動の一端をご紹介いたします。

おしゃべりも料理も盛りだくさん

10月30日（土）恒例のバーベキュー大会が開催されました。

今年は、台風の影響を受け、天候は朝から荒れ模様。急遽会場を香澄公園から袖ヶ浦公民館に移し開催することになりました。

はじめ、参加者が集まるかどうか大変心配しましたが、なんと89名（外国人22名）の方々に参加していただき楽しい会にすることが出来ました。

今回の「バーベキュー大会」は、当日朝「ゴミゼロ活動」を展開したロータークラブの方々の協力も得て行いました。このように他の団体と協力して一緒に活動をする機会はめったにないことで、今後の活動を考える上で大変に参考になりました。

さて、バーベキューですが、今回は、外で調理することが出来ませんでしたので、全て調理室で行いました。よって、例年のようにみんなで焼きながら食べるということが出来ませんでしたが、しかし、多くの方々の協力により、会としては大変に盛り上がり、とても良い交流ができました。

「新しい発見が、一杯」

比較文化部会では、11月13日（土）本協会会員ロルフ・ヴィートリスバッハ コバヤシさんを講師としてお招きし、文化講演会を開催いたしました。

今回の講演テーマは、ロルフさんの母国「スイス歴史に大きな誇りを持つ小さな国」です。



講演では、自分で撮られたビデオを紹介していただくとともに、上手な日本語を駆使して、スイスの歴史や教育、生活、文化等について幅広くお話をいただきました。

お話は、はじめて聞くようなことが多く、大変に内容の濃い講演会でした。

今回の講演を聞かれた方の中には「今まで自分勝手に抱いていた『きれいなアルプスの山々、チーズ・時計の生産、そして平和な国スイス』のイメージ、お話を聞いて大きくひろがり、さらに魅力的な国になりました。ぜひ、行ってみたいですね。」

きっと参加された多くの方も、この講演を聴いてスイスの新たな一面を発見されたのではないでしょうか。

日本の文化にふれた楽しいバス研修

2004年11月21日（日）交流部会と日本語ボランティア部会共催のバス研修旅行が、行われました。

今回は、東京湾アクアライン「海ほたる」の見学と「円覚寺・鶴岡八幡宮の寺社めぐり」そして「鎌倉の街ぶらり散策」という楽しい研修旅行です。

参加者は、抽選で選ばれた41名（外国人19名）の方々。当時は、最高の秋晴れです。

「海ほたる」からは、なぎの東京湾を大きな船が、ゆったりと行き来する光景を見ることが出来ました。普段忙しくされている参加者の方々にとっては、心からほっと出来るひと時ではなかったでしょうか。

また周りの山々が色づきだした鎌倉は、「七五三」とも重なり大変な人出でした。しかし、外国の方々にとつては、運良く鶴岡八幡宮の大舞台で行われていた「結婚式」も見ることが出来、日本の文化にふれるよい機会になりました。



後日、参加された外国の会員の方に感想を聞いてみましたが、どの方もこの旅行で、日本の素晴らしい文化に

ふれるとともに、楽しい交流が出来大変に喜んでおられました。

企画から当日の運営まで、ご苦労いただいた担当の方々に心から感謝いたします。

「浅草羽子板市」ぶらり見学会

比較文化部会では、毎年2回「日本文化セミナー」を開催しておりますが、今回は今までとは趣向を変え、外に出て日本の伝統文化にふれる会を企画しました。

今回とりあげた伝統文化は、「羽子板」です。以前はお正月になると家族で羽根つきをしている光景をよく町中で見ることが出来ました。しかし、最近はまったくといっていいほど見ることが出来ません。まさに子どもたちの遊びの世界から「羽根つき」という遊びが、消え失せようとしています。

そこで今回は、江戸時代から開かれている「浅草の羽子板市」にかけ、伝統的な「羽子板」の文化にふれることにしました。

見学会は、12月18日（土）参加者15名（外国人8名）でスタートしました。当日は、穏やかな天候に恵まれたこともありすごい人出。参加者のみなさんは、もみくちやにされながらもやつとのことで羽子板市の会場に到着。みなさんは、伝統的な羽子板に魅せられたようで、お店の前からなかなか動こうとしません。



2時間あまりの見学会でしたが、参加者の多くは、お店によって違う押し絵やその生地の使い方に大変に関心を持たれたようです。中には店員とお客様との駆け引きや商売のしきたりに興味を持たれた方もいて驚きました。

「日本の正月遊び」を楽しく学びました。

1月19日（水）日本語ボランティア部会主催の「新年茶話会」が開催されました。今回は「新年茶話会実行委員会」の方々が、いろいろとアイデアを出し、運営をして下さったおかげで、楽しい活動がたくさん出来ました。

参加者全員の自己紹介からはじまった茶話会は、驚沼在住の菊池さんによるお琴の演奏「六段」で会場が一氣

にお正月の雰囲気に。参加者（75名）は、早速お正月の遊び「かるたとり」「はねつき」「福笑い」「お手玉」「折り紙・花瓶と花づくり」と「お琴の演奏」に・・・。

外国の会員の方にとっては、どれもはじめての経験ばかり。最初は不安そうでしたが、ボランティアの方々に勧められていろいろな遊びに挑戦です。



十二支の形をした可愛いお手玉を巧みに操る人、イチローやトムクルーズの福笑いにチャレンジし、その出来にびっくりする人。素敵なお手玉を作り大満足の折り紙コーナーの参加者。こわごわ挑戦したお琴でしたが、素敵なお音色に魅せられ夢中になってしまった会員さん。ひらがなの勉強も兼ねた「かるたとり」や狭いスペースで行った「はねつき」や「こままわし」もとても楽しそうでした。

皆さんの夢中になっている姿や楽しそうな表情を見ていると今年も良い年になりそうな気がします。

がんば頑張りました。新年餅つき大会！

恒例の「新年餅つき大会」が、1月29日（日）11時から13時まで菊田公民館で開催されました。

この会は、昨年から参加者は必ず一人一役をすることになっていますが、今回も蒸す人、おもちをつく人、あんころ餅を作る人、お雑煮を作る人などみんなそれぞれパートに分かれて頑張りました。

後半は、いよいよ食べたりおしゃべりしたりする時間です。普段ゆっくりとお話できない方ともこの時ばかりは、話が弾み、交流の輪が、大きくひろがりました。もちろんお腹もいっぱい。

楽しい時間は、あっという間に過ぎてしまうものです。最後に今年一年のみんなの幸せと協会の発展を祈り、新年餅つき大会は、閉会となりました。



青少年部会では、昨年の12月11日（土）に、毎年恒例のクリスマスパーティーを開催しました。今回も、小さなお子さんから大人の方まで、たくさんの方が遊びにいらしてくださいました。今回は、グループ対抗のゲームを中心に、BINGOや、前回好評だった、斎藤園子によるバイオリン演奏、恒例のプレゼント交換を行いました。ゲームでは、参加者の皆さんを4つのグループに分けて、グループで競い合いました。丸いお菓子をお箸で運ぶ豆運びゲームや写真を破ってそれを再生する、写真再生ゲームを行いました。初めて会った人たちとグループになって、皆さん最初は緊張していたようですが、ゲームを進めていくうちに、いつの間にかみんなで協力し合って頑張っていました。特に、写真再生ゲームでは、一度目は、違うグループが破った写真を再生したのですが、二度目は、予想に反して、自分たちが破った新聞を再生することになったので、みんなビックリ。意地悪して、一生懸命、難しく、細かく破っていたので、みんな頭を抱えて考えていました。ゲームで頭をたくさん使って疲れた皆さんを癒してくれたのが、前回もいらしてくださいました、斎藤園子によるバイオリン演奏でした。今年度も、とても素敵なお色を聴かせてくださいました。みんなが知っている、ソナタやディズニーの名曲、クリスマスの曲などたくさんの曲を弾いてくださいました。演奏の最後には、「見上げてごらん夜空の星を」をバイオリンの伴奏で、みんなで合唱しました。意外と難しかったのが、プレゼント交換。プレゼント交換は、毎年のことですが、なかなか曲のリズムに合わせてプレゼントを回すことができなくて、苦戦しました。早くても合わないし、逆に遅くともリズムに乗れない。何度もやり直しをしました。しかし、皆さんの協力のおかげでなんとか無事に成功させることができました。今年度もなかなか良いクリスマスパーティーになり、青少年部会一同とてもうれしく思っています。来年度も今年度以上に良いクリスマスパーティーを開けるように頑張りますので、ぜひ来年度を楽しみにしていてくださいね。



青少年部会のメンバーになりませんか。

青少年部会では、一緒に活動するメンバーを随時募集しております。活動内容は、イベントの企画と運営です。毎回メンバー全員楽しく活動しています。来年度からは、毎月2回定例会を行うことにしています。部活やバイトの予定がある場合でも、2回の定例会のうちの1回に参加してくれれば大丈夫。また、学生は、試験など学校の予定、社会人の方は、仕事の予定を優先しているので、安心です。イベントの企画に携わってみたい、みんなと一緒に楽しく活動したい、新しい友達を作りたい、どんな理由でもOKです。私たちと一緒に活動してみませんか？興味を持ったら、一度定例会に顔を出してみてください。定例会の日時については、N.I.A.事務局までお問い合わせください。

みなさんの参加をお待ちしています。



会員紹介／こんにちは、コンニチハ／みなさん、どうぞよろしく！

ミネソタから来ました、よろしく！

ベッキー・ハート
Becky Hart (習志野市外国語指導助手)



Hello! My name is Becky Hart. I'm a new ALT from Minneapolis, Minnesota in the USA. I came to Japan in August. My hobbies are reading and playing volleyball. I worked as a newspaper reporter in the USA, but I am enjoying taking a break from writing to teach. I also like Japan's culture. Minnesota is known for "Minnesota Nice" which means the people there are usually nice to everyone. But I've found the people in Japan to be even more kind and welcoming than I would expect from Minnesotans! While I am in Japan, I hope to travel around the country and learn as much Japanese as I can.

Michael 先生のグリティング

マイケル・ゴヴィンド
Michael Govind (習志野市外国語指導助手)



こんにちは、マイケルです、英語の教師です。今習志野七中学校のALTです。
まえ よんちゅう えいご
前に、四中で英語をおしえました。ALTにいることはとてもたのしいとおもいます。英語のぶんぽうとイギリスのぶんかでおもしろくしたいです。2003年6月スコットランドから日本にきました。日本で、はじめましたしごとはシェーン英語学校の先生でした。そこで学生やあかちゃんやTOEICのせいどに英語をおしえました。スコットランドにすんでいるとき、議会ではたらきました。前にセントアンドリュース大学をそつぎょうして、ボランティア活動をしたり、ドランキラで有名なルーマニアのトランシルベニアでも英語を教えたりしました。スコットランドいたときはしゅみはカラオケと空手でした。日本のぶんかはとてもおもしろいとおもいます。今学校でテーブルテニスをしていますとよく日本語をべんきょうしています。日本語はむずかしい！英語もむずかしい、それからみなさんほんとにがんばてください！どうぞよろしくおねがいします。

Hello, and Bonjour from Canada eh!

カーム・クラーナ
Karm Khurana (習志野市外国語指導助手)



Hello, and Bonjour from Canada eh! I am Karm Khurana. I am 26 years old. I was born and raised in Merritt, British Columbia (BC). Anyone know where that is? Well, it is a small town located 271 kilometers northeast of Vancouver in the heart of the Nicola Valley with a core population of approximately 8,000 people. Merritt was a great place to grow up! However, after graduating high school, I moved to a nearby city where I completed my pharmacy technician certificate and my Bachelor of Arts degree (BA).

A BA degree is a 4-year degree. The degree requires students to enroll in a language course. The language courses offered in my small university were French, Spanish, German, and Japanese. I was unsure of which language to study, however, I was certain after 5 years of French in public school that French was not one of my desired choices (Canada is a bilingual country and French is taught to all students in public school for a minimum of 5 years). So that left Spanish, German and Japanese. As it turns out, Spanish and German were both evening classes. Therefore, through process of elimination, I selected Japanese. I never thought or dreamed that 5 years later I would be living in Japan. In retrospect, I wish I would have paid more attention in class. In my final semester, I enrolled in two geography courses that focused on the geography of Japan. It was these courses that initially intrigued my interest in Japan. The idea of moving here had crossed my mind. However, after completing my BA, I decided to continue studying at the University of British Columbia in Vancouver, where I completed my Bachelors of Education (B.Ed.) in August 2004. I was finished with school, then what? It wasn't until then that the idea of traveling to Japan would actually become a reality. It was the perfect opportunity to travel and teach!

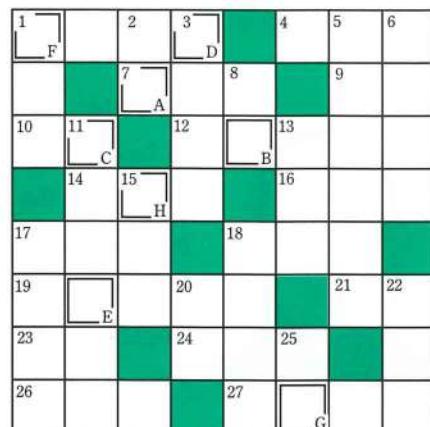
Letsチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.69/プレゼント付！

〈Across〉

1. Of no real value: useless, worthless
4. Franklin Delano Roosevelt
7. Committee for Economic Development
9. Early English
10. North riding
12. (Music for a) Balloon dance that originated in Brazil.
14. Assistant Language Teacher
16. (Sound of a) knock
17. A point won by a single stroke as in tennis
18. Oily substance obtained from certain seeds.
19. Role of tobacco leaves for smoking
21. For example
23. Iowa
24. A fabric woven into meshes and used to catch birds, fish, etc.
26. Dead-Letter Office
27. Free from pain or anxiety

〈Down〉

1. Covered or roofed vehicle for delivering goods by road.
2. Integrated Circuit
3. Place made or chosen by a bird for its eggs.
5. Discussion (esp. at a public meeting or in parliament)
6. Cut (grain etc.)
8. District Attorney
11. adj. Characteristic of Race
13. Moral Re-Armament
15. One of the limbs of a person's or animal's body used in walking, running, and jumping.
17. Strong, sour liquid
18. Independent
20. He is --- expert in biology.
22. Cheerful, merry
25. Chemical symbol for Tantalum



〈出題者〉 御園生 馨 (編集部)

〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A~hの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで1月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。

たくさんのご応募お待ちしています。

楽しいN.I.A.Potluck Partyにいらっしゃいませんか。

N.I.A.恒例の楽しい「ポトラック パーティー」が、開催されます。
ポトラック パーティーとは、参加者があり合わせの材料を使って手作りのお料理をつくり、それを持ち寄ってお料理の作り方を教えったり、楽しくおしゃべりをしたりするパーティーをいいます。

昨年もフィリピンの家庭料理をはじめ、多くの国自慢のお料理が紹介されました。料理をすることの好きな人、食べることが大好きな人、人と人とのふれあいが好きな人、みんな大歓迎です。お気軽にお出で下さい。お待ちしています。

(比較文化部会主催)

日 時 2005年3月19日(土)午後1時~3時
場 所 習志野市国際交流協会事務局
(サンロード4階)
持ち物 手作りお料理又はお菓子一品
(場合によっては、既製品でも構いません)
参加費 無料
申込み 3月16日(水)までに習志野市国際交流協会に
Tel・Fax 047-452-2650
E-mail nia@seaple.ne.jp



編集後記

* スクエア誌の編集に携わり、六年が過ぎました。その間、読者の方々から暖かい励ましと、ご要望をたくさん戴きました。毎月の編集会議で、より楽しく読んで貰えるよう部員一同知恵を出し合い、お陰様で一度も欠番もなく今回の第69号を迎える事が出来ました。編集部員は勿論のこと、読者の皆さんから賜りました御支援に心から感謝致します。有り難うございました。(Y.T.)

* The best way to learning is said to be "experience" yet leaning through information plus preparation may be the full coverage of knowledge. In case of disaster let us always be prepared. (J.S.)

* スクエア第68号には多数のご応募を戴き深く感謝しています。その中の一つに、「クロスワードの製作者はプロだと思っていたが、苦労話を読んで同じ人間だなあと感じた」。このご意見には、なんだか強い感銘と親近感を覚え、今後楽しく続けようとの気持ちを強くしました。“パズルおじさん”より。(K.M.)

*スマトラ島沖地震の募金活動に多くの方が協賛いただき本当にありがとうございました。被災地の方々が、一日もはやく元気を取り戻せるよう今後私達は何をしたらよいのか考えていくべきだと思います。(T.S.)

前回の解答

〈解答〉 WELLINGTON

K	I	W	I		A	L	L
I		E	N	D	O	E	
T	U		C	A	N	O	E
		N	A	A	A	S	S
A	S	C		A	P	E	
A	H	E	E	P		N	G
A	O		T	E	A		A
A	D	D	X	M	A	S	

当選者

伊藤 裕達さん 稲葉 史華さん
遠藤 螢さん 長谷川友紀さん
若山 勇人さん 正解者は27名でした。

N.I.A.スクウェア・第69号

発行2005年3月1日/発行責任者・山田大三

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・館川 裕

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www1.seaple.ne.jp/nia>

〈Eメール〉 nia@seaple.ne.jp